

1. 略歴

1981年3月	東京大学文学部国文学専修課程卒業
1984年3月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程修了
1984年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程退学
1986年4月	東京大学文学部助手
1988年4月	フェリス女学院大学文学部専任講師
1991年4月	フェリス女学院大学文学部助教授
1993年4月	上智大学文学部助教授
1999年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
1999年4月	博士（文学）（東京大学）
2006年10月	東京大学大学院人文社会系研究科教授（現在に至る）

2. 主な研究活動**a 専門分野**

中世文学、和歌文学

b 研究課題

和歌文学については、マクロ的には和歌史を構想し記述すること、ミクロ的には新古今集前後を中心とした中世和歌作品の方法を解明することを課題としている。前者は専門化し、細分化された研究の現状に対して、和歌を長い射程のもとに捉え、この文芸のもつ意義と独自性を総体的に把握することを目指している。後者は、作品を完成したものとして結果論的に捉えるだけでなく、より作者自身の方法に即した、内在的な理解を目標としている。

中世文学については、徒然草や方丈記など、とくに和歌的素養を基盤とした作品について、とくにその文体と方法を解明することを目標としている。

c 主要業績**(1) 著書**

- 共著、谷知子・渡部泰明ほか、『平安文学をいかに読み直すか』、笠間書院、2012.10
共著、阿部泰郎・渡部泰明・鈴木健一・松澤克之、『天皇の歴史 10 天皇と芸能』、講談社、2012.11
共著、小峯和明・渡部泰明ほか、『日本文学史 古代・中世編』、ミネルヴァ書房、2013.5
共著、安藤宏・高田祐彦・渡部泰明、『日本文学の表現機構』、岩波書店、2014.3
共著、島内裕子・渡部泰明・島内景二、『和歌文学の世界』、放送大学教育振興会、2014.3

(2) 論文

- 渡部泰明、「徒然草と兼好法師集」、『国語と国文学』、第89巻第5号、112～124頁、2012.5
渡部泰明、「百人一首選歌の謎」、『ユリイカ』、第44巻第16号、81～90頁、2012.12

(3) 学会

- 国内、渡部泰明、「和歌の本意」、能楽学会 2013 年度大会シンポジウム、早稲田大学小野記念講堂、2013.5.26
国際、渡部泰明、「歌の〈かたち〉——源俊頼の方法——」、東京文化財研究所国際シンポジウム、2014.1.10～12
国際、渡部泰明、「百人一首と定家」、日本女子大学国文学会国際シンポジウム、2014.3.22

3. 主な社会活動**(1) 他機関での講義等**

- 駒澤大学文学部、非常勤講師
学習院大学文学部、非常勤講師
放送大学、客員教授、「和歌の心と情景」（2010～2013）

(2) 学会

- 和歌文学会、常任委員
中世文学会、常任委員
日本文学協会、委員